

電子複写不可

昭和元、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一

独立混成旅団隊関係陣中誌



防衛研修所戦史部



陣中日誌

自昭和十九年十月一日
至昭和十九年十月三十一日

獨立混成第十五聯隊本部

22546

第三中隊長

第一機銃中隊長

少尉	少尉	中尉	少尉	少尉	少尉	少尉
石井	山谷	贍崎	藤本	薩野	大野	鈴木
高市	三	忠	孝	一	誠	新
夫	治	夫	治	夫	治	夫

昭和十九年十月一日

晴

沖繩駐留軍本報村

渡久地

受領

獨立混成第四旅團

一部隊ハ伊江島飛行場設定工事ヲ了ヘ。ハ。ヨリ一九。〇。ニ亘リ各擔任守備地ニ歸還ス

獨立混成第四旅團命令

名。一。八。〇。一。八。〇。一。八。〇。一。八。〇。

一軍ハ新ニ戰備、度ヲ規定セラル

二旅團守備計畫第六戰備ヲ別紙、通リ改訂ス

三別命ニテ際各部隊戰備、度ハ了號戰備ヲ實施ス

旅團長

鈴木少將

下達法

印刷交付

報告通報先

32A 24D 500B 25FB 曉支那軍通 沖憲海軍

船舶ニ大隊

配布先 練指揮下一般

獨立混成第五聯隊日日命令

渡久地

下達命令

陸軍曹長

佐藤市四郎

藤田美男

岡島廣治

三枝利助

諏佐善雄次

長谷川昌雄

曾我恒吉

岡田奔雄

櫻田敬喜

谷口要太郎

川島英三

小熊利里

安島昇

甚田喜久二

陸軍曹長

中村宗作

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

給一等級

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

陸軍曹長

畑實生

坂垣英一

岡島武男

中濟福太郎

天沼高作

佐藤周三

鈴木安之助

雨宮幾三

大野辰家

中田佐吉

五十嵐武男

陸軍軍曹

岡部 寛二

同

麻 栢 純 博

同

福 岡 良 英

同

川 手 初 太郎

同

関 川 武 男

給二等級

三

陸軍衛生軍曹

若 林 武 夫

給二等級

四

兵科乙種幹部候補生

(九月三十日附)

小 岩 井 二 郎

任陸軍伍長

五

陸軍伍長

(九月三十日附)

小 岩 井 二 郎

陸軍政令第7392號ニ據リ隊備役歸入引續臨時召集

工兵隊附

六

聯隊本部 陸軍

増 淵 宗 助

同 同

松 永 榮 吉

命陸軍一等兵

七

工兵中隊 陸軍兵長

武 土 藤 讓

下士官勤務ヲ命ス

八

陸軍軍曹

小 池 喜 義

給一等級

(九月三十日附)

番

昭和十九年十月二日

晴

渡久地

受領

獨立混成第四旅團

一 部隊全般ニ内務實施

獨立混成第四旅團命令

七〇・三・一七〇

一 南西方面ニ於ケル空海ヨリスル敵ノ行動ハ逐次活潑化シツ、アリ

有カナル我艦團ノ一部ハ瀬底錨地ニ入港渡久地ニ揚陸シ十月十五日頃出港ノ豫定アリ

一 旅團ハ入港船舶ノ對空掩護ニ任スト六一渡久地ニ於テ短切揚塔ヲ断行セントス 之カ爲メ第四師團ヨリ高射砲及機関砲各ニ中隊ヲ四日一五。迄ニ浜崎(渡久地西南約三料)ニ到ラシメ予ノ指揮ニ入ラシメラル

三 南地區隊長ハ前項高射部隊ヲ指揮シ浜崎附近ニ陣地ヲ占領シ瀬底錨地渡久地港ニ入港スル船舶ヲ掩護ス

該高射部隊ハ船團出港後前所屬ニ復取スルモノトス
 四北地區隊長ハ別示計畫ニ基キ作業隊ヲ編成シ波久地港
 ニ於テル波久地兵站支那ノ揚荷作業ニ協力スヘシ

旅團長 鈴木少將

下達法 電話後印刷交付

配賦先 隸指揮下一般

報告通報先 三三軍 砲部隊 波久地兵站支那

獨立混成第一五聯隊目日命令

一 週番司令 陸軍中尉 古川十代喜

同 副官 陸軍曹長 佐藤市四郎

自十月十四日 頭書通り服務スヘシ

以下略

下達命令
 獨立混成第一五聯隊

昭和三十九年十月三日
 一 部隊副官事務連絡、為那霸軍司令部ニ出張

二 一三。部隊長岡澤大尉帶同尾久原方面偵察

渡 久地 三一七。第一大隊長末隊

下達命令 別紙

獨立混成第一五聯隊

獨立混成第一五聯隊

獨立混成第一五聯隊目日命令 渡久地
 陸軍大尉 志村敏一郎

右事務連絡、為十月三日、三泊四日、予定ヲ以テ那霸
 市ニ出張ヲ命ズ

以下略

獨混三五作命第五の號

北地區隊命令

一〇 三二六〇〇
渡久地

一 南西方面ニ於ケル空海ヨリスル敵ノ行動ハ遂次活潑化シテアリ
 旅團ハ瀨底錨地ニ入港スル有カナル我船團ヲ爲第二四師團ヨリ
 配屬セラレル高射砲及機關砲各ニ中隊ヲ濱崎附近ニ配置シ入
 港船團ノ對空掩護ニ任スルト共ニ渡久地ニ於ケル短切揚格支部
 行次

二 北地區隊ハ一部ノ兵力ヲ以テ渡久地港ニ於ケル渡久地兵站支部ノ揚
 荷作業ニ協力セントス
 三 各隊ハ左記ノ員ヲ渡久地揚陸場ニ差出シ揚荷作業ニ協カスベシ

左

記

聯隊本部

一五名

通信班

二〇名

聯隊砲中隊

一五名

速射砲中隊

二〇名

四 揚陸作業隊 作業實施 関シテハ別ニ示ス

獨立混成第一五聯隊長 美田大佐

下達法 印刷交付

配布先 各守備隊 平山隊

報告通報先 44G Bs 國頭地區隊 南地區隊 伊江島地區隊

船舶工兵第六聯隊 兵站支部 特設水上勤務第三中隊

昭和十九年十月四日 一一四。部隊長 杉浦中尉 石井少尉 帶同内當

兩 方面山岳偵察

渡久地 第一大隊長 未隊

昭和十九年十月五日

晴

渡久地

一部隊長 岡澤大尉 杉浦中尉 笹岡内當大堂
原方面偵察

二 第三大隊兵器検査實施 藤本中尉以下八名
伊江島へ出張

昭和十九年十月二日

晴

一 御子神大尉副官會同出席，為名護旅團司令
部ニ出張

渡久地 二 部隊長岡澤大尉帶同内當方面，地形ヲ偵察

三 部隊副官那霸出張ヨリ帰隊

受領 獨立混成第四旅團命令 一。六。二〇。 名護

獲兵器作命令第九號

一 軍令陸甲第四十七號及球參編第三號球參動第一七六號
ニ基キ司令部第二步兵隊旅團砲兵隊，定數馬ノ微
發ヲ命セラル

二 旅團ハ別紙計畫ニ依リ馬匹ヲ微發シ之ヲ司令部第

二步兵隊及旅團砲兵隊ニ交付セントス

三 前項部隊ハ交付計畫ニ基キ各受領者ヲ差出シ各其，

部隊ニ於テ受領スヘシ

四 軍馬匹微發委任員，編成別紙ノ如シ

五 委員長以下，給養ハ兵站給養ニ依ルヘシ

六細部ニ関シテハ後發委員長ヲシテ指示セシム
旅團長 鈴木少將

下達法 印刷交付
配賦先 隷下諸隊

報章通報先 三軍二六六 迫六 兵站

別紙略

下達命令

獨立混成第一五聯隊日日命令

渡久地

獨立命令第七號

一 週番司令

陸軍中尉

藤本 策二

同 副官

陸軍曹長

堀江 種吉

自十月七日 至十月廿日 頭書、通服務スヘシ

二

陸軍大尉

御子神三代治

本六日名護駐屯地會報出席、夕ノ即日帰隊、予定ヲ以テ球第一八八・部隊ニ出張ヲ命ス

昭和十九年十月七日

晴

一 部隊長 國澤大尉 帶同 内當方面山岳地帯偵察

二 駐屯地會報 安原

渡久地 三 旅團長 宇土大佐 松井大尉 帶同 禾隊

昭和十九年十月八日

晴

渡久地

受領

獨立混成第四旅團命令

一。八。〇。〇。詔書奉讀及舉行
一。〇。〇。軍經理部長佐藤二十次佐末隊

一。〇。八。一。三。〇。後

一。マリアナ方面ヨリ敵機動部隊未襲ノ虞アリ
軍八十月八日一。〇。〇。丙號戰備ヲ令セラル

二。各部隊ハ速ニ戰備ヲ完成スヘシ
之ヲ爲持ニ防空施設ヲ整備シ且訓練ヲ實施スヘシ
三。爾余ノ作戰準備ハ益之ヲ促進スルヲ要ス

旅團長 鈴木少將

下達法 要旨電話受印刷交付

配賦先 練指揮下一般

報告先 三二軍

下達命令別紙

獨立混成第五號
獨立司令部第七九號

獨立混成第一五聯隊日日命令

夜入地

一本隊明九日兵棋戰術出席、為三泊、予定ヲ以テ
那霸千軍司令部ニ出張ス

以下略

獨立混成第五號

北地區隊命令

一〇八二〇〇
渡久

一、マリアナ方面敵機動部隊來襲ノ公算アリ

十月八日一〇〇〇西南諸島全地區ニ對シ丙號戰備下令セララル

二、地區隊ハ對空並海上警戒ヲ嚴ニスルト共ニ對空戰備ヲ強化セ
ントス

三、各隊ハ對空海上警戒ヲ嚴ニシ一部、對空射擊部隊ヲ戰斗
配置ニ就カシメ主力ハ迅速ニ掩蔽下ニ退避シ得ルノ準備
ヲナスベシ

四 各隊ハ速ニ配備狀況並ニ處置ノ概要ヲ電話ニ依リ報告スヘシ

北地區隊長

美田大佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシメ後印刷交付

配布先 各舟備隊

報告通報先

44GB5

船舶工兵隊

平山隊

兵站支部

國頭地區隊

南地區隊

伊江島地區隊

昭和十九年十月九日 一〇〇〇 南隊長軍司令部於此 於此 榎田術出席 為

時 那霸市 出張

渡久地

下達命令別紙

機五作命第三號

北地巴隊命令

十月九日マ九〇〇
渡久地

一 地巴隊ハ一部ノ幹部ヲ旅團ヲ通シ武部隊ニ
派遣シ其ノ陣地構築狀況ヲ實視セシメ我カ
陣地構築ニ資セントス

二 左記人員ハ第二次陣地構築視察員トス
十月十一日ニシテ迄ニ地巴隊本部ニ集合スベシ
服裝ハ單獨ノ軍裝トシ眼鏡ヲ携行スベシ

- | | | |
|------|------|------|
| 聯隊本部 | 岡澤大尉 | 杉浦中尉 |
| 第一大隊 | 松村中尉 | 鏑崎中尉 |
| 第二大隊 | 中野中尉 | 長越少尉 |
| 第三大隊 | 高橋中尉 | 竹田中尉 |

三 岡 沢 大 尉 八 前 頂 人 員 三 區 處 三 十 月 十 一 日
夕 迄 三 旅 團 司 令 部 三 到 三 松 下 大 尉 三 連 絡 三
陣 地 構 築 狀 況 三 視 察 三 十 月 十 四 日 帰 隊 三

四 本 視 察 三 要 ス ル 経 費 三 兵 站 給 與 ト ス

五 予 八 軍 兵 棋 演 習 后 引 續 キ 三 泊 ノ 予 定 ヲ
以 テ 前 頂 三 陣 地 視 察 三 参 加 ス

北 地 三 隊 長 美 田 大 佐

下 達 法 三 音 三 傳 三 後 印 刷 交 付

既 布 先 各 守 備 隊

昭 和 九 年 十 月 十 日 一 早 朝 ヲ 以 後 未 罷

別 冊 渡 久 地 晴

戰 闘 詳 報

一 二 一 三 〇 部 隊 本 部 八 副 官 以 下 一 部 人 員 三 渡 久 地 三 成
置 内 當 複 節 陣 地 三 到 ル

昭和十九年十月十日

一〇一〇南西空襲

戰 闘 詳 報

獨立混成第十五聯隊

聯隊本部戦闘詳報

(國頭郡本部町附近)

十月八日マリヤナ方面敵機動部隊空襲ノ公算アリ

(女情報)

同日一〇、〇〇南西諸島ニ對シ丙號戰備ヲ下令セラル
北地兵隊ハ右ニ基キ對空砲ニ海上警戒ヲ一層嚴ニスルト共ニ各本
部所在地ニハ所要ノ連絡者ヲ残置シ主力ハ新陣地側近ニ對空
射撃部隊ヲ配備シ晝夜兼行新陣地ノ完成迄ニ空襲時ノ
損害防止ニ邁進シヤリ

十月十日〇七、〇〇在聯隊本部、高射砲隊(鈴木隊)ヨリ沖繩北
飛行場爆撃セラルトノ情報ヲ受ク、本部ハ右ノ情報ヲ直ケニ
第一、第二大隊ニ通報スルト共ニ石井少尉ヲ長トスル四〇名ノ
對空射撃部隊ヲ本部西側高地ニ配備シ爾余ノ兵力ヲ以テ
退避準備ニ遺憾ナシヲ期セリ
七時一〇分對空監視哨ノ報告ト同時ニ敵機約三十機名護
方向ヨリ本部町上空ニ侵入ス

當時ニ於ケル部隊本部兵力左記ノ通り

本部、將校 六、下士官兵 二五、(欠空射撃部隊)

(二) 敵機空襲ニ及ボシタル氣象並ニ住民ノ狀況

天氣平穩ニシテ風波ナク海上機動ニ適シ渡久地上空ハ相當濃度ノ白雲低ク射撃ヲ阻害セルモ甚大ナリ。

空襲下住民ノ狀況

敵機ノ空襲ヲ知ルヤ全町民家ヲ放棄シ極メテ無統制ニ山地ニ退避シ部落火災ヲ生ズルモ之ガ消火ニ任シタルハ渡久地警察署員外若干、町吏員トニニ、警防団員ニシテ青壯年特ニ防衛隊、警防団、青訓生、活動ヲ見ケリシハ最モ遺憾トスル所ナリ

(三) 彼我ノ兵力(戦斗参加人員)

敵ハ米國第五艦隊、第五八機動部隊ニシテ空母、戦艦、巡洋艦、駆逐艦、潜水艦、掃海艇ヲ配シタル最新鋭部隊ナルモノナリ

敵機探偵者ノ素質

闘志旺盛ニシテ飛行技術ハ良好ナリ、投弾及射撃技術ハ飛行技術ニ比シ稍遜色ヲ認ムルモ相當ノ確度ヲ有ス

敵ノ戦法

特異ノ点ヲ認メタルモ船舶港灣施設ニ重点ヲ指向シ次ヲ住民地ヲ襲撃スル等統制アル爆撃ヲ實施セリ

使用爆弾 五〇キロ程度
 使用焼夷弾 一〇―三〇キロ程度
 使用焼夷カード 相當多數使用セリ
 我方ノ兵力

時間	記	事	部	隊	兵力
〇七―一〇	敵機侵入時		空射撃部隊		一四〇
			部		八二五
				計	四一三

九五ノ渡久地炎上時	石	同	右同	右同	右同
本隊	八	四	四	五	二
通信隊	一	四	四	四	二
隊	二	六	六	六	二
砲	三	六	一	六	四
砲	三	一	二	七	三
兵	三	八	二	八	五
兵	三	二	七	三	三
隊	三	六	七	八	三
隊	三	六	七	八	三
隊	三	六	七	八	三

(四)

各時期ニ於ケル戦況経過ノ概要及連絡施設ノ状態
 十日七時在崎本部高射砲隊(鈴木隊)ヨリ神龍北飛行場
 爆撃サルトノ情報ヲ受取ルニ直ニ第一第二大隊ニ通報スルト
 六ノ右岸少尉ヲ長トスルニ直ニ第一第二大隊ニ通報スルト
 七ノ龍崎特機セシメ爾ノ兵力ヲ以テ本部ヲ指立中隊ノ
 者類其他重要要領ヲ撤出シ準備ス

口七ノ敵艦載機雷爆撃機連合約二十機名護方向ヨリ
 本部河上空ニ侵入シ崎本部砲台中ノ艦船並ニ渡久地砲
 台中ノ船艦ニ對シ急降下爆撃ヲ實施スルト共ニ自動車佐
 民ノ密集セルモノ又ハ密集セルモノヲ移動セル者ニ對シテハ觀
 測ニ機銃掃射ヲ加ヘ約四十分後侵入方向ニ退避ス
 コノ間部隊對空射撃部隊ハ敵機ノ頭上至近距離ニ追
 スルヲ射撃ス

爾後一口分ク間ニ著ルシク機数ヲ増加シ四十数機トナリ渡久
 地撃ヲ以テ崎本部渡久地埠頭ニ對シ爆撃ヲ實施スルト共ニ
 謝花、今歸仁、運天、伊江島ニ對シテモ爆撃ヲ實施セリ
 部隊ハ對空射撃ニ任ジアリシニ口名及本部ヨリ差込シ得
 ベキ全兵力五名ヲ以テ藤本中尉ニ指揮セシメ渡久地ニ集
 積中ナル彈藥ヲ撤出ニ任ズ、撤出時要ニ敵機ノ機銃
 掃射ヲ受フ

○九、五〇四機編隊ヨリナル一群ハ高度五〇米ヲ以テ渡久地
部落ヲ襲撃シ部落、中心タル警察署附近ニ爆弾及マ
数ノ焼夷弾ハ一部焼夷カードヲ混入スヲ投下忽ケニシテ
部落数ヶ所ニ火災ヲ生ズ

時恰モ地方住民ハ急ノ退避ニ消火ニ任ズルモ、ナク猛火ニ委
スノ外ナキニ至レリ

コレ迄ニ海岸弾薬庫ニ急派セシ藤本中尉以下ノ努力ニ
ヨリ自動車一車輜半ヲ搬出シ一部ハ海中ニ投入避
難セシモ隊ニ弾薬庫炎上ト共ニ誘發シ全クテ下シ得
ズ急ニ彈薬ノ搬出ヲ断念シ末後セル工兵一小隊及旅団
工兵將校以下八五名ヲ以テ部落ニテ破壊消防ニ任ジ
一、二、四〇鎮火スルヲ得タルモ今次火災ニ依リ別表ノ如キタ
數ノ彈薬ヲ焼失セリ

今次空襲ハ〇七、〇、〇九、五〇、一、一、四〇、一、二、一〇ノ四波
ニ火別ニ得ルモ此且上空ニハ常時ニ一カ至ニ編隊飛網シ

(五) 連絡施設ニ就テ

一、五、三〇ニ到ルモ爆音止マズ
部隊内通信網ノ構成ハ

- 本部 ——— 謝花校 (I)
- 本部 ——— 今帰仁校 (II)
- 本部 ——— 伊野渡 (第三中隊)

ノ三本ニシテ空襲ト共ニ郵便局ヲ經由セシ今帰仁線ハ
切斷シ使用シ得ズ無線及傳令ニヨリ連絡ニ任ジタリ
旅団及軍トノ連絡ニ電話ヲ使用シ得ズ僅ニ無線ニヨリ連
絡ヲ確保セル実情ニシテ連絡施設ノ完備並ニ感度ノ調整
ヲ痛感セリ

戦闘詳報第一號附表

昭一九二〇。獨逸混成第十五聯隊兵器損耗表

昭和十九年十月

日調製

備考	合計	隊部		種類	消費	損	失
		分	区				
	380	380	包突通普式九九	彈			
				其他兵器			
	150,600	150,600	包突通普銃式九九	彈			
	455	455	銃奉式年四十				
	25,720	25,720	通普機重式二九				
	4,800	4,800	甲徹				
	1,700	1,700	彈箱式四九砲山式一四				
	147	147	彈?				
	1,050	1,050	彈箱式四九砲七三式四九				
	1,500	1,500	彈甲徹				
	100	100	彈箱中火藥式七九九				
	80	80	通普射發式九九				
	390	390	煙發小式四九九				
	71	71	煙發中製試				
	380	380	彈箱銃口四製試				
	55	55	箱	黃			
	90	90	箱	示			
	52	52	箱	吊			
	12	12	箱	三			
	25	25	箱	流			
	10	10	箱	流			
	10	10	箱	流			
				十年式榴彈筒			
				十年式信号彈			
				白線			
				白線			
				綠			
				綠			

六、對空射撃ハ特ニ敵機超低空ニ於テ撃墜確實ト判定

シタル場合ニ限リ実施スルヲ適當トス
尚射撃ニ當リ追隨射撃ノミヲ実施スルコトナク、今次空襲ノ如ク一日標ニ對シ及覆急降下爆撃ヲ實施セル場合ノ如キハ其ノ飛翔線ニ正對シテ射向ヲ決定シ待撃射撃ヲ實施セバ相當ノ効果ヲ得ルモノト確信ス

云任民ノ訓練及老幼婦女子ノ疎開ハ速ニ實施スルヲ要ス
只通信網ノ強化ト情報ノ速達ニ萬遺憾ナキヲ期ス

(七) 本日ノ受領セル命令左ノ如シ
獨逸四旅作命第五一號(五二〇)
獨逸混成第四旅團命令 伊〇一〇一七〇〇 豆 味

一、敵機動部隊ハ本朝末數次ニ亘リ艦載機延約三〇機ヲ以テ伊江島渡久地灘底錫地、名護邊天港附近各要地ヲ砲撃セリ

現在迄ニ判明セル戦果はニ従カ方ノ損害別紙ノ如シ

紙々軍ノ状況未ク明カナラス

ニ旅團ハ依然乙號戦備ヲ以テ防衛ニ任スルト共ニ陣地構築

ヲ促進セントス

三各隊ハ益々對空對海上ノ警戒ヲ嚴ニシ萬遺憾ナキヲ期スル

ト共ニ昼夜兼行ヲ以テ陣地ノ完整ニ努ムヘシ

四各隊ハ更ニ徹底セル彈藥糧秣ノ分散配置ヲ取り被害ヲ

極限スヘシ

五予ハ伊豆味ニ在リ

旅團長代理 宇・土 大佐

(一〇・一〇・三三・〇〇交領)

(八) 本日ノ下達セル命令左ノ如シ

獨混一五作命第五四號

一〇・一〇・二二・〇〇 地

北地区隊命令

一敵狀ハ既ニ示セル如ク旅團ノ情勢ニヨリモ敵ノ空襲は茲ニ一

上陸ノ公算大ナルモノアリ

ニ地且陣地ハ一部連絡要員ヲ現本部位置ニ配置シ且ソ土ノハ新

陣地配備ニツキ情況ノ推移ニ即應セントス

三第一、第二大隊ハ大隊長ノ区廻リヲ以テ速ニ新陣地配備ニ

キ戦斗ノ準備ニアルト共ニ現工事ヲ促進スヘシ

四本部及獨立中隊ハ左記人員ヲ残置シ志村大尉ノ指揮

ニ入ランムヘシ

記

本部 書記 一、傳令 一、

通信班 下士官 二、兵 八、

電報班 一、兵 二、

獨立中隊(PIA) 各兵 三、

医務室 下士官 二、

炊事 一、兵 二、

志村大尉ハ前線人員ヲ指揮シ對岸對空監視ニ任スルト
共ニ情況急ヲ要スル場合ハ速ニ現通信網ヲ撤收シ聯隊

新陣地ニ轉進スヘシ

六各獨立中隊ハ夜ヲ掖シ現任務ヲ續行スヘシ

七通信班長ハ一部ヲ以テ聯隊新陣地ニ於ケル本部各大隊

間ノ通信網ヲ構成スルト共ニ旅團トノ通信線構成ヲ準備

スヘシ

八予ハニニ、ロ新陣地△ニ六ニ北麓ニアリ

聯隊長代理 岡澤大尉

昭和十九年十月十一日

晴 渡久地

受領

獨立混成旅司令部

一、早朝聯隊本部内當ヨリ渡久地ニ移ル

二、昨日ニ引續キ全カヲ以テ彈藥其、他資材内當ニ取出

獨立混成第四旅團命令

伊豆味

一、十月上旬沖繩本島ニ到着ヲ予定セル有カナル我船團ハ敵情並ニ天候ノ變化ニ依リ入港日時未定トナレリ

二、南地區隊ハ獨立四旅司令部第四七號第三項ニ依ル任務ヲ續行シ泊地ノ掩護ヲ益々強化スヘシ

三、北地區隊ハ同第四項ニ依ル作業隊ヲ準備スルモ協力期間ハ之ヲ未定トシ別命ス

四、予ハ伊豆味ニ在リ

旅團長代理 宇土大佐

下達法 電話後印刷配賦

配賦先 隸指揮下一般

報告先 三二軍

昭和九年十月三日

晴

渡久地

受領

獨立混成第四旅團命令

一。四五。空襲警報發令

二。部隊長那霸軍司令部兵機隊術ヨリ帰隊

三。一四。空襲警報解除

獨立混成第四旅團命令

伊一ニ五

一。敵狀ニ関シテハ既ニ通報セル通り敵機ノ未襲畧ニ
確實ナリ

二。各隊ハ日出迄ニ配備ヲ完了シ對應ノ處置ニ遺憾
ナキヲ期スヘシ

三。濱崎附近高射部隊ハ近ク所屬部隊ニ復帰ヒシメラル
ノ予定ニ付撤收ノ準備ヲ為スヘシ

細部ハ部員ラシテ指示セシム

旅團長代理兼南地區隊長

宇上久佐

下達法 要旨電話後印刷交付

配賦先 親指揮下一般

報告先 三三軍

獨立混成第四旅團命令

伊三三味

一敵機艦隊八本十二日。ニ。頃宮古島南方約三。并
ヲ西進シ。七三。ヨリ台湾空襲ヲ開始セリ
我々海軍第一航空艦隊ハ九州方面ヨリ沖縄地并及小
禄并ニ機動シタル後本十二日又敵機動艦隊ヲ攻撃ス
ル旨

一旅團ハ浜崎附近ニ配置セル高射部隊ヲ前所屬部隊ニ復
取セシムルト共ニ伊江島并ノ補修ニ協カセントス
二高射部隊ハ該地ニ於テ予ノ指揮ヲ脱シ前所屬部隊
ニ復取スヘシ

細部ハ前所屬部隊ニ指示セシム
同地并ノ補修ニ関シ航空地區隊ニ
協カスヘシ

旅團長代理兼南地區隊長 宇土大佐

下達法 要旨電話後印刷交付

配賦先 練指揮下一般

報告(通報)先 三三軍 二四師

昭和十九年十月十二日

一。八。部隊長岡澤大尉帶同空爆ニヨル渡久地町

曇

ノ被害状況實視

渡久地

二一三。各大隊副官警察署長 本部町長 會同

空爆被害爾後ノ所置及空襲下ニ於ケル地方民指
導等ニ関シ意見交換

昭和九年十月十四日

要

沖繩縣國頭郡

伊江島

施設等實施

一。セロ。林團長末隊 渡久地被害状況並ニ對空

二。部隊長石井少尉帶同伊豆味方面偵察

三。獨混四旅作命第五號ヨリ部隊ハ急據伊江島

移駐ヲ命ゼラレ一七。部隊長渡久地發伊江島

ニ到ル逐次夜ヲ徹シ第二大隊ヲ除キ聯隊主力ハ伊江

島ニ到着露營

獨混旅作命第五號

石一四一五〇〇

受領

一。皇國ハ今日ニ亘リ台灣附近ニ於テ航空決戦ヲ企

圖ス

軍ハ管内ニ於ケル航空基盤ヲ確保シ右ノ作戰遂行ニ

協カス

二。旅團ハ伊江島ニ兵力ヲ増強シ飛行隊ニ協カシ飛行隊

ノ即時補修ニ遺憾ナカラシメントス

三獨立混成第五聯隊長ハ全聯隊本部歩一大隊全聯隊砲中隊ノ主力及全聯隊工兵中隊ヲ率テ速カニ伊江島ニ前進シ伊江島地區隊ヲ指揮スルト共ニ全地飛行場大隊ヲ區處シ新ニ伊江地區隊長トナリ終夜ヲ間ハス飛行隊ニ協カシ飛行場ノ即時補修ニ些カノ遺憾ナキヲ期スヘシ

船舶輸送ニ関シテハ晚部隊ト協定スヘシ

四南地區隊長ハ北地區隊ノ残部隊ヲ併セ指揮シ新

ニ本部地區隊長トナリ前任務ヲ續行スヘシ

五本部地區隊ハ所要ノ重火器ヲ渡久地附近ニ配置シ

輸送間ノ掩護ニ任セシムヘシ

六予ハ名護ニ在リ

旅團長 鈴木少將

下達命令

獨立混成第五聯隊
獨立混成第五聯隊
獨立混成第五聯隊
獨立混成第五聯隊

下達法 要旨口達後印刷配布

配賦先 隷指揮下一般 50%

報告通報先 三三軍 晚沖繩支那部 沖繩支

渡久地晚部隊

別紙

續戰事命令第五號

北地部隊命令

五、五、四〇
渡久加

一、皇國ハ今日明日ニ亘リ台灣附近

ニ於テ航空決戦ヲ企圖ス

軍ハ管内ニアル航空基地ヲ確

保シ右作戰遂行ニ協力ス

旅團ハ伊江島ニ兵力ヲ増強シ

特ニ飛行場ヲ補修シ遺憾ナカラ

シム

本部地区隊ハ一部ノ重火器ヲ渡
久地埠頭附近ニ位置セシメ輸送
間掩護ニ任ズ

ニ北地区隊(欠第天隊及速射砲中
隊)ハ伊江島地区隊及同地飛
行場大隊ヲ併セ指揮シ新ニ伊
江島地区隊トリ晝夜ヲ間ハズ

ニ飛行場ノ補修ニ些ノ遺憾
カラシメントス

ニ第一大隊及騎隊砲中隊(欠
一小隊)工兵中隊ハ直ニ現作業
ヲ中止シ各々露營地附近ニ集
詰本四日ニモラソデニ渡久地埠
頭ニ前進シ人員及資材掛ハ必

處ニ依リ伊江島ニ前進スベシ

四第大隊(屋通信一部)及速射放

中隊ハ新ニ以稱スル本部地也隊長

指揮下ニルベシ

五伊江島地也隊及同地總行隊

大隊ハ地也隊長、伊江島到着

後其指揮下ニルベシ

伊江島地也隊ハ一部ノ重火器

部隊上陸ヲ掩護スベシ

部隊本部到着マデハ現任務

ヲ續行スベシ

六兵器委員及糧秣委員ハ現有

兵器彈藥糧秣資材ヲ逐次

伊江島ニ追送スベシ

自動車五ヲ配属ス

七御子神大尉ハ人員及馬区塔載掛
トナリ曉部隊ト連絡遂次到着ス
ル人馬ノ塔載ニ任スベシ

八村上少尉ハ材料塔載掛トナリ先
ツ緊急前送スベキ貨物ノ塔載ニ
任ズベシ

九通信班長ハ第二大隊ニ無線ニ

通信班主力ハ伊江島到着
后隸下及指揮下部隊間ノ通
信網ヲ構成スベシ

十對空監視及對空射撃部隊ハ
部隊出發后最后ノ舟艇ニ依リ
出發スベシ

十一予ハ二五〇渡久地發伊江島ニ到ル

各隊ハ一七ヨリ命令受領者ヲ伊江
村國民學校ニ差出スベシ

北地区隊長

美田大佐

下達法

履録ニ依リ要旨ヲ傳ハ後命
令受領者ヲ兼テ口達筆談セシ
メ後印刷交付

紙布片 隸指揮下一般

狂浪三竹命某五曲號

伊江島地区隊命令

伊江島

- 一 地区隊一部ヲ以テ飛行場附近主力ハ伊江島村落内ニ露營ス
- 二 第一大隊及工兵中隊ハ飛行場附近ニ露營スベシ
- 三 爾余、諸隊ハ伊江島村落内ニ分散露營スベシ
- 四 飛行場附近露營司令官ハ野崎大尉
- 五 伊江島村落内ハ西村大尉トシ各露營區毎ニ警戒及勤務ヲニ
處スベシ
- 五 聯隊砲中隊ハ伊江城山西麓及學校高地附近ニ陣地ヲ占領
對空射撃ヲ準備スベシ

六、各大隊ハ步兵一小隊、MG主力ヲ以テ常時對空射撃ノ準備ニテ
ラシムルト共ニ對空監視ヲ至嚴ナラシムベシ

七、諸隊ハ兵器彈藥糧秣資材等一切ヲ洞窟内ニ分散格納シ砲
ニ對スル損害ヲ絶無ナラシムル如ク速ニ處置スベシ

八、空襲警報ハワイレンニ依リ傳達スルト共ニ空襲警報發令間
ハ赤旗ヲ學校展望台上ニ掲グ

九、予ハ伊江村役場ニ在リ
伊江島地區隊長 美田大佐

下達法 各大中隊長ニ要旨ヲ傳へ後命令受領者ヲ集メ口達筆
印刷交付

配布先 隷指揮下一般

昭和九年十月十五日

晴 視察

伊江島 二一七。部隊長本部前廣場ニ於テ島民ニ對シ訓示

並ニ激勵ス

一、西南諸島及台湾ヲ未襲セシ敵機動部隊ハ我軍ノ
猛攻ニ潰滅、状態ナリ

一九、三。丙號敵機解除セラル

獨立混成第四旅團命令 一。一五、一六。 號

受領 獨立混成第四旅團
一、軍ハ情勢ニ伴ヒ特設警備中隊、警備召集ヲ實施セ
ラル

二、特設警備第三五中隊ハ左記、如ク召集ヲ實施スヘシ

左記

發令日時 十月十六日 〇九。

三、細部ニ関シテハ高級部員ヲシテ指示センム

下達命令

獨逸軍第五七號
獨逸軍第五八號

旅團長 鈴木少將

下達法 要旨口達後印刷交付

配賦先 隷指揮下一般

報告先 三二軍

別紙

伊江島地防隊命令 伊江島

一 地防隊ハ防疫給水班ヲ以テ第一大隊及工
兵中隊ノ給水ヲ實施セントス

二 防疫給水班長ハ防疫給水班ノ全カヲ
以テ第一大隊及工兵中隊ノ給水ニ任スベシ
給水源ハマヅリ井ヲ使用スベシ

三 飛行場大隊長ハ給水ノタダ空ドラムカン
ニヨリ本ヲ防疫給水班長ニ貸與スベシ

伊江島地防隊長 美田大佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セテ後印刷交付

配布先 隷指揮下一般

報告通報先

獲濃五作命第五本號

伊江島地區隊命令

伊一五、一九三〇
島

一、十月十日以來一部ヲ以テ南西諸島主カヲ以テハ台湾ニ未襲セル
有力ナル敵機動部隊ハ皇軍ノ猛攻ニ依リ潰滅的打撃ヲ蒙
リ東方ニ遁去中ニシテ我軍ハ之ニ對シ戰果拡大中ナリ
軍ハ今五日一九三〇丙號戰備ヲ解ク

二、地區隊ハ一部ヲ以テ飛行場大隊ノ飛行場整備作業ニ協力ス
ルト共ニ主力ハ依然陣地構築ヲ促進セントス

三、各隊ハ一部ヲ以テ對空監視ニ任ゼシメ對空射撃部隊ハ
ラ徹シ隨時對空射撃ニ移行シ得ル態勢ヲ以テ陣地構築
ノ促進ヲ計ルベシ

四、第二大隊及工兵中隊主力ハ明十六日以降飛行場大隊ノ飛行場

整備作業ニ協力スベシ
實施ノ細部ニ関シテハ飛行場大隊長ト協定スベシ

五、飛行場大隊長ハ飛行場整備作業ニ協力スベキ第一大隊ノ各
中隊及工兵中隊ニ對シ徵用者各一。名ヲ配屬セシムベシ

六、爾余ノ諸隊ハ前任務ヲ續行シ鞅備ノ完整ヲ促進スベシ

七、予ハ伊江村役場ニ在リ

伊江島地 區隊長 美田大佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシメタル後印刷交付

配布先 隸指揮下一般

報告先 446Bs

昭和九年十月十六日

晴

伊江島

部隊一般ニ飛行場整備作業及陣地構築ニ專念ス

一、坪井待從武官沖繩本島御米島ノ為戰備強化セラレ一。〇。〇。丙號戰備下令セラル

二、一四〇。空襲警報發令

一四四。空襲警報解除

獨立混成第四旅團命令

受領

獨立混成第四旅團

一、第三遊雲隊及第四遊雲隊(第四中隊欠)ハ其ノ編成完結ト共ニ予ノ指揮ニ入ラシメラル

二、各遊雲隊ハ召集第一期教育終了后直ニ左ノ配置ニ就キ別紙ノ任務ヲ遂行スヘシ

第三遊雲隊

ノ羽地村及久志村(含)以南國頭地區隊守備担任地域ニ其本部ヲ名護岳東方山地ニ設定ス

第四遊撃隊(第四中隊欠)

ノ羽地村及久志村(合マズ)以北ノ國頭地區隊守備担任
地域

之其ノ本部ヲ伊湯岳(辺土名東南方約六料)附近ニ設
定ス

三補給ハ旅團司令部ニ於テ担任スヘシ

旅團長 鈴木少將

下達法 要旨口達後印刷交付

配賦先 7036 7071 7072 7073 71/711 第三第四遊撃隊

報告先 22A

別紙略

獨立混成旅團命令第五號

獨立混成第四旅團命令

名一六一〇

一軍精報ニ依テハ有カトル敵機動部隊ニ乃至三群

沖繩東方百乃至三百海里ヲ操動中ナリ

二旅團ハ甲號戰備下令ノ顧慮シ速クニ作戦準備ヲ
促進セントス

三各部隊ハ甲號戰備ノ下令ヲ顧慮シ諸準備特ニ機砲
射撃ニ備ヘ且對戰車内攻手ノ教育ヲ促進スヘシ
肉攻手ノ教育ハ區處下部隊ニ於テモ十分ニラシムルヲ
要ス

旅團長 鈴木少將

下達法 要旨口達後印刷交付

配賦先 隸指揮下一般

報告先 22A

別紙

下達命令

獨立混成旅團命令第五九號

獨立混成旅團命令第六〇號

獨立混成旅團命令第六二號

獨立混成第五聯隊日日命令

伊江一島

三第一大隊第三大隊ハ各ニ対空警戒ヲ至
嚴^シニシムルト共ニ第一大隊ハ伊江島南
西海直第三大隊ハ同東北海面ノ対潜
警戒ヲ至嚴^ナラシムルト共ニ一部ヲ以テ対
空射撃ノ態勢ニアラシムベシ

五予ハ伊江村役場ニアリ

伊江島地区隊長 美田大佐

下連係 伊江島地区隊長

伊江島地区隊長命令 四一六一五 伊江島

一地区隊長ハ在渡久地資材ノ監視物資
追送並ニ傳書使要員トシテ一部人
員ヲ渡久地本部國民學校ニ常置セ
シメントス

二左記人員ハ直ニ渡久地ニ到リ物資^{蒐集}追
送並ニ連絡任ズベシ

左記
高木主計中尉 物資監視並ニ
金安軍曹

乙部兵長

追送

傳令 佐々木兵長以下四名一連絡

細部ニ関シテハ部隊副官ヲシテ指示セシム

予ハ伊江村役場ニ在リ

伊江島地区隊長 美田大佐

下達法 要旨ヲ傳ハ後却制交付

配布先 隸指揮下一般 本部地区隊

4493

昭和九年十月七日

晴

伊江島

一 部隊長 岡澤大尉 帶同陣地偵察

二 二四二 空襲警報發令

一四三 空襲警報解除

三 一六〇 部隊長 軍司令部ニ於ケル兵棋戰術出席

為那霸ニ出張

獨立混成第四旅團命令

受領 獨田旅團先頭

一 情勢、緊迫ニ鑑ミ旅團ハ複廓陣地内ニ於ケル軍需品、集積ヲ促進セントス

二 輸送、為左ノ如ク自動貨車ヲ毎日ハ〇〇名護司令部ニ差出シ田尻中尉ノ指揮ヲ受ケシムヘシ

司令部

平山隊

自十月十七日 作中旅團ニ於テハ、二名護ニ於テハ、自十月三日 兵隊五部自勤貨車一援助ス

三 田尻中尉の遺用宿馬車一輛(四ノ)

三 田尻中尉の遺用宿馬車一輛(四ノ) 以主急速ナル陣内分散

集積ニ仕スヘシ

四 細部ニ関シテハ部員ヲシテ指示セシム

旅團長 鈴木少將

下達法 要旨電報後印刷交付

配賦先 隸指揮下一般

報告(通報)先 2A 兵站支部

獨逸軍作命令第五號

獨立混成第四旅團命令

一〇・一七・一七〇。 名

一 旅團ハ戰開司令所附近諸工事ヲ緊急促進セントス

二 特設警備第三五中隊ハ速カニ該地ニ前進シ陣地構築ニ仕スヘシ

三 糧秣資材ヲ輸送ハ旅團司令部ニ於テ擔任スヘシ

四 細部ハ部員ヲシテ指示セシム

陸軍

旅團長 鈴木少將

下達法 口達後印刷交付

配布先 隸指揮下一般

報告先 第三二二軍

昭和九年十月十八日

晴

伊江島

下達命令

獨立混成隊第八四號

一。七一。警戒警報解除

獨立混成隊第五聯隊日日命令

伊江島

一本隊十月十七日兵棋演習參加，為二泊，予定ヲ以テ那霸市軍司令部ニ出張ス

昭和十九年十月十九日

晴

伊江島

一、ハ、部隊長軍司令部ニ於ケル兵棋戦術ヨリ
歸隊
ニ、獨混留旅作命第六三號ニヨリ部隊ハ前警備地区ニ
復帰ヲ命セラル

三、各隊ハ移駐準備ヲナス

獨立混成第四旅團命令

受領

一、球作命丁第一四八號ニ依リ空氣圧縮車一輛(操縦手共)

ヲ前所屬部隊ニ復歸セシメラル

ニ、第五十飛行場大隊長ハ該空氣圧縮車ヲ渡久地港ニ

揚陸後前所屬部隊ニ復歸セシムヘシ

三、海上輸送ニ関シテハ曉部隊ト協定スヘシ

旅團長 鈴木少將

下達法 要旨電話後印刷交付

配布先 練指揮下一般

一〇一九一〇
右 復